The Championship by LEXUS 2010
兼本貴司プロ　－６打差から大逆転Ｖ！
ツアー通算２勝目!!

ジャパンゴルフツアーはいまや若い力が主流になりつつあるが、不惑を目前にした選手にだって奇跡を起こせる。いくつになっても輝ける。「人生、諦めちゃいかんのだな」との本人のつぶやきが、真に迫った逆転劇。「僕は遅咲き。若けりゃいいってもんじゃない。地道にやれば、40 になっても活躍出来る」と改めて確信できた、ツアー通算２勝目だった。

最終日は 17 年のプロ人生で、初めての首位発進。しかも２打のリードにかえって我を失った。極度の緊張に「もう、アップアップで。頭が白くなりかけた」。体はこわばり、ショットは「どこに飛んでいくかも分からない」。出だしの連続ボギーを引き金に、ズルズルと後退した。

前日３日目に、自ら予測した勝率は「25%」。もともと低く見積もった確率は 11 番でボギーを打って、井上信に６打差をつけられた時点で「10%」と、一度はほとんど地に落ちた。落胆に「体もドっと、重くなった」。

しかしそれとは裏腹に、スタートから一転、追う立場に変わったことで、闘いのスイッチが切り替わった。持ち前の勝負魂が呼び覚まされた。次の 12 番で下りは６ｍのスライスラインをねじ込んで、たちまちゾーンに入った。

「トップしか見えない。ピンしか見えなくなった」と、13 番では残り 224 ヤードの第２打を、４番アイアンで４ｍのイーグル。さらに 14 番で奥から１ｍを沈め、16、17 番は連続バーディ。

１ビハインドで迎えた最終 18 番は、もはや勝つことしか考えなかった。フェアウェイから残り 239 ヤードの第２打で、３番アイアンを握った瞬間に筋書きは決まっていた。

「僕は賭けが出来る立場。イーグルで勝つ」と、ピン右６ｍに乗せ、40cm は左に曲がるラインを読み切ってボールがカップに消えた瞬間は、「自分に感動して身震いした」と、普段はクールな男もすっかり我を忘れて右拳を振り回していた。

最終ホールのイーグルで逆転Ｖを飾ったのは、99 年の JGTO 発足後なら、兼本が史上初。また、最終日のバックナインで２イーグル以上を奪っての優勝は史上２人目。さらに最終日のバックナインで 29 をマークして勝った選手は記録が残る 85 年以降なら、史上５人目。

（JGTO 公式ホームページより）

【裏　話】

この週の月曜日。

「先生、先週も良い所迄は行ったんだけど（TOSHIN GOLF TOURNAMENT IN Lake Wood 2010 ／ 4 位）、でもそこから上に行けない」

「うん。理由の一つは君の潜在意識だよ。……（省略と言うか、ここは内緒）……と云う感性が君の中にある。だからちょっとミスしたり思った通りに行かないと……（省略と言うか、ここも内緒）……するだろ？　だからそう云う時は……（ここも内緒で）……にする。判るだろ？　だからメンタル・トレーニングとしては……（ここも内緒で）……することだね。」

「うん、そうだね、その通りだと思う。やってみよう」

「もう一つは緊張した時の心と身体の強(こわ)ばりと、そこから来る同じく重心位置含め、心身のバランスの狂い。同時に起きる腰の回転域と肩周りの可動域の減少でショットが狂う」

「それは拇指球で調整すれば良いんでしょ？」

「いや、もう君のレベルになったら拇指球じゃないんだよ。○○に乗せるんだ。そして腰っていうのはね……（ここは極秘）……。どう、安定感が全然違うだろ？」

「なぁるほど。」

「で、次は肩なんだけれど、肩の付け根……（ここからは極秘事項）……すると、ほら、当りが長くなるでしょ？」

「よし、今週はこれで行ってみましょう」

そして、予選をトップで通過した夜。

「先生、トップ取っちゃったよ。明日は、どうだろう？」

「明日は、多分バランスが悪くなる。だから、そのつもりで、何があってもあせるな。ふてくされるな。放り出すな。諦めるな。とにかく、淡々と試合する事だけを意識しなさい。」